

2022年3月期 連結業績概要

専務執行役員
山西 哲司

(注) 決算短信の修正に伴い、2022年5月25日に説明会資料の数値を修正いたしました。
修正箇所には下線を付して表示しております。

2022年3月期 通期決算のポイント

米中対立やコロナ禍による影響を受けるも、社会経済活動の正常化、生産活動の回復により、エレクトロニクス需要は堅調に推移。売上高・営業利益とも過去最高を更新*。

- 売上高は前期比28.6%増、営業利益は前期比49.4%増

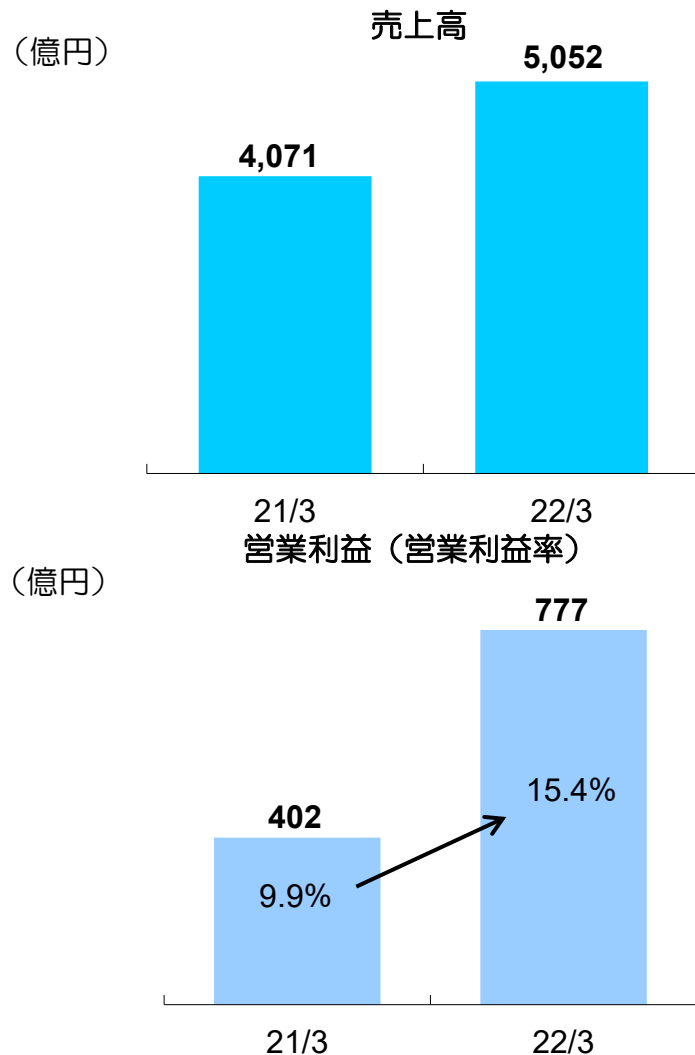
- 自動車生産は半導体や部材供給制約の影響を受けたものの、部品搭載点数の増加傾向や部材在庫確保の動きにより、自動車市場向けの販売は堅調に推移。受動部品、センサの販売が拡大。
- ICT市場では、スマートフォンの生産が期初想定を下回るも、PC、タブレットの需要は引き続き堅調に推移。また、データセンター向けの投資が回復し、サーバー需要が拡大。二次電池、センサ、HDDヘッドの販売が拡大。
- 旺盛な設備投資を受け、産業機器市場の需要が堅調に推移。受動部品、二次電池、電源の販売が拡大。
- 期末配当予想を9円増配。

*営業利益は2017年3月期に計上の事業譲渡益を除いたベースで比較

2022年3月期 連結業績概要

(億円)	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期実績	前期比	
			増減	増減率 (%)
売上高	14,790	19,021	4,231	28.6
営業利益	1,115	1,667	551	49.4
営業利益率	7.5%	8.8%	+1.3 pt	-
税引前利益	1,219	2,342	1,123	92.1
当期純利益	793	1,836	1,043	131.4
1株当たり利益 (円)	209.36	484.53	-	-
為替	対ドルレート (円)	106.05	112.33	5.9%の円安
	対ユーロレート (円)	123.67	130.53	5.5%の円安
為替変動による 影響金額	売上高：約1,257億円の増収 営業利益：約69億円の増益			

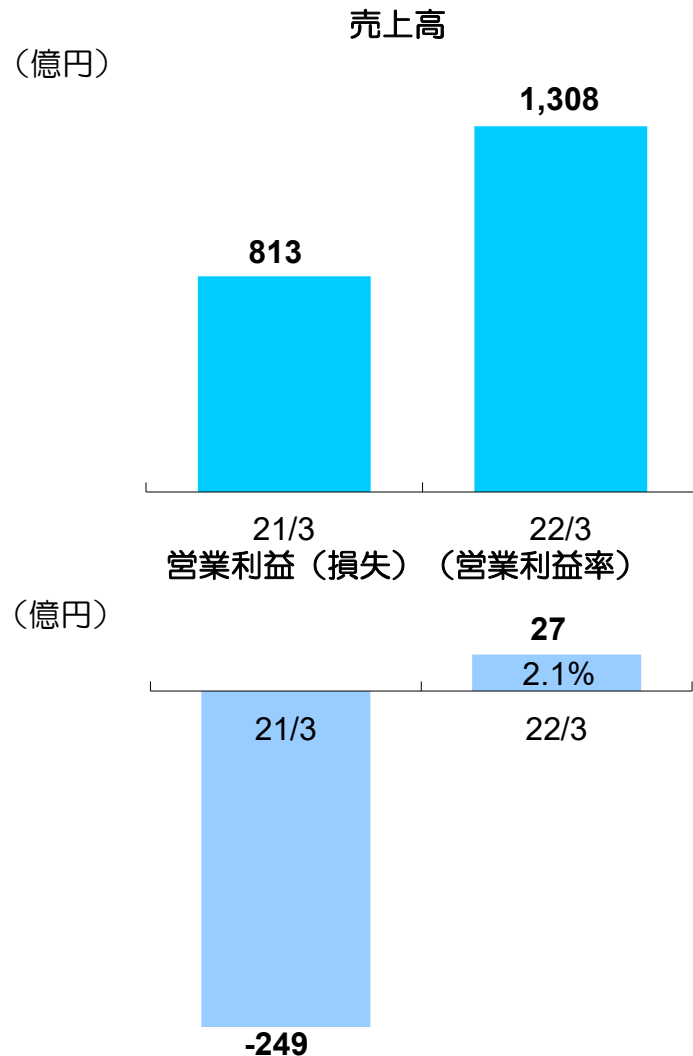
2022年3月期 各事業の状況（受動部品事業）



売上高 5,052億円（前期比24.1%増）
営業利益 777億円（前期比93.2%増）

- セラミックコンデンサ
 - 前期比で増収増益。
 - 自動車市場及び代理店向け販売が増加、ICT市場向け販売が減少。
- アルミ・フィルムコンデンサ
 - 前期比で増収、収益が改善。
 - 産業機器市場及び自動車市場向け販売が増加。
- インダクティブデバイス
 - 前期比で増収増益。
 - 自動車市場及び産業機器市場向け販売が増加。
- 高周波部品
 - 前期比で増収減益。
 - 自動車市場向けの販売が増加。
- 圧電材料部品・回路保護部品
 - 前期比で増収増益。
 - 産業機器市場及び自動車市場向けの販売が増加。

2022年3月期 各事業の状況（センサ応用製品事業）

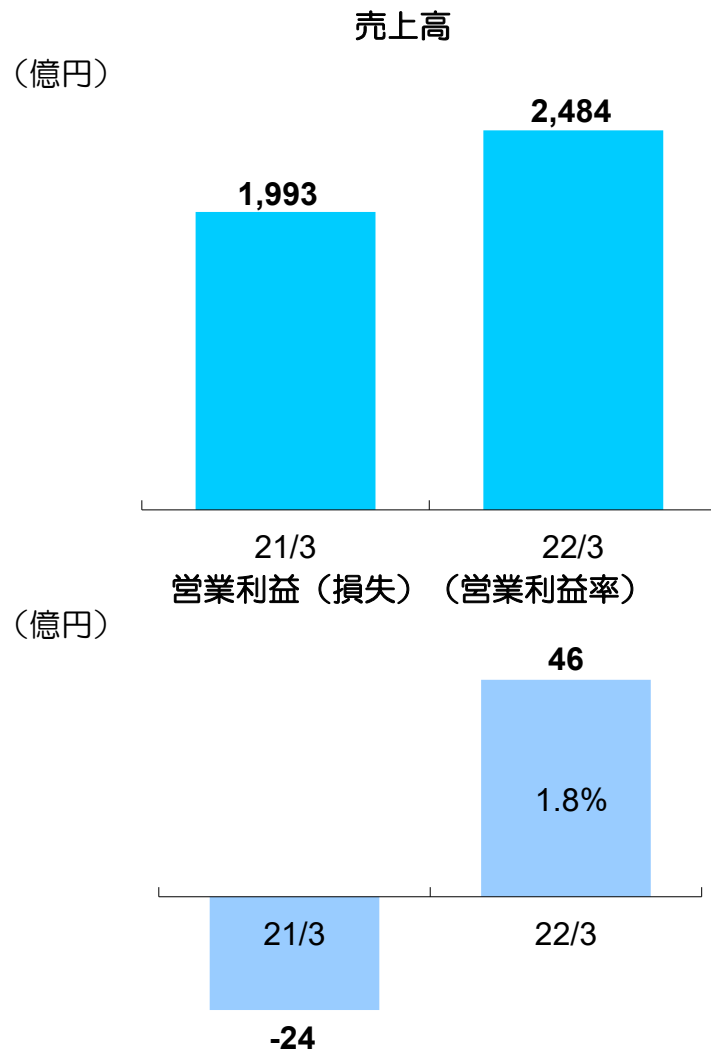


売上高 1,308億円（前期比60.8%増）
営業利益 27億円（前期比一%増）

● センサ

- 前期比大幅な増収増益により黒字化を達成。
- 温度・圧力センサは、自動車市場用途及び家電向け売上が増加し、収益も改善。
- 磁気センサは、ホールセンサの自動車向け販売が増加し、収益も改善。TMRセンサは、ICT市場向け販売が大幅に拡大。収益も大きく拡大。
- MEMSセンサは、モーションセンサ及びマイクロフォンの販売が顧客基盤とアプリケーションの拡大により大幅に増加し、収益も大きく改善。

2022年3月期 各事業の状況（磁気応用製品事業）

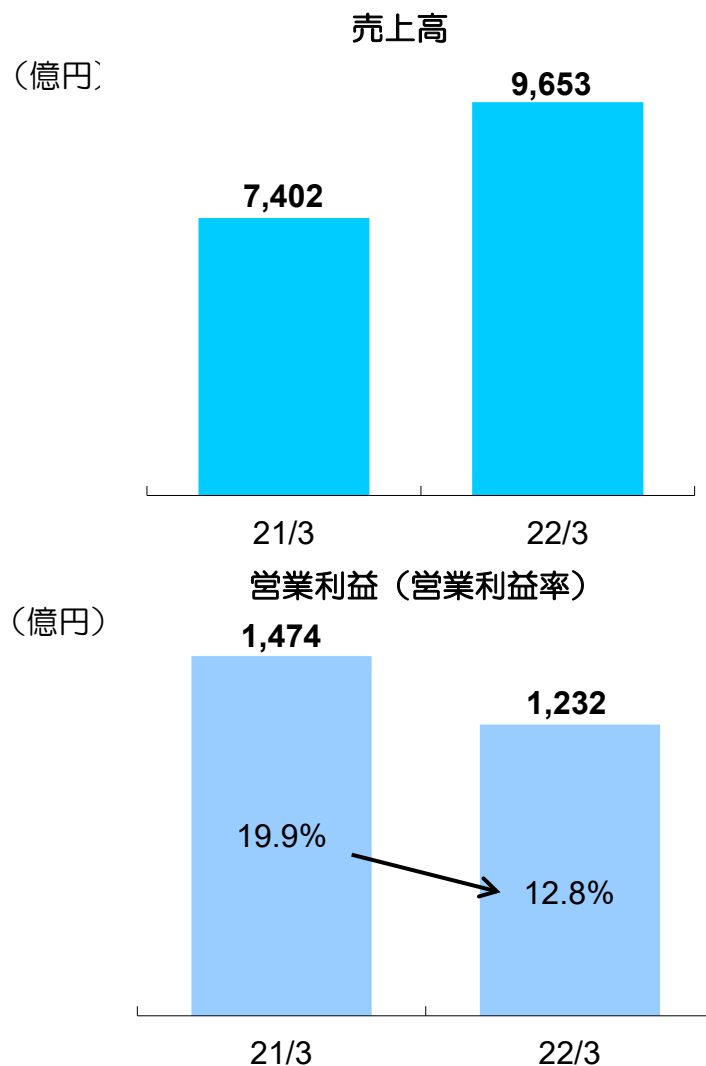


売上高 2,484億円（前期比24.7%増）
営業利益 46億円（前期比一%増）

- HDDヘッド・HDDサスペンション
 - HDDヘッドはデータセンター向け投資回復により、ニアライン用が大幅増加し前期比で増収増益。
 - HDDサスペンションもニアライン用が好調により増収、一時費用による影響で減益。
- マグネット
 - 自動車市場向けの販売が増加し前期比で増収。材料高騰の影響等により収益改善進まず。

2022年3月期 各事業の状況（エネルギー応用製品事業）

Attracting Tomorrow



売上高 9,653億円（前期比30.4%増）
営業利益 1,232億円（前期比16.4%減）

- エナジーデバイス（二次電池）

- 前期比で増収減益。パワーセル製品向け先行投資や材料価格高騰の影響により減益。
- モバイル用途（スマートフォン、タブレット、ノートPC）向けの販売数量は横ばいで推移。
- 家庭用蓄電システム、電動二輪車向けのパワーセル製品の販売が大幅増。

- 電源

- 産業機器用電源は前期比で増収増益。

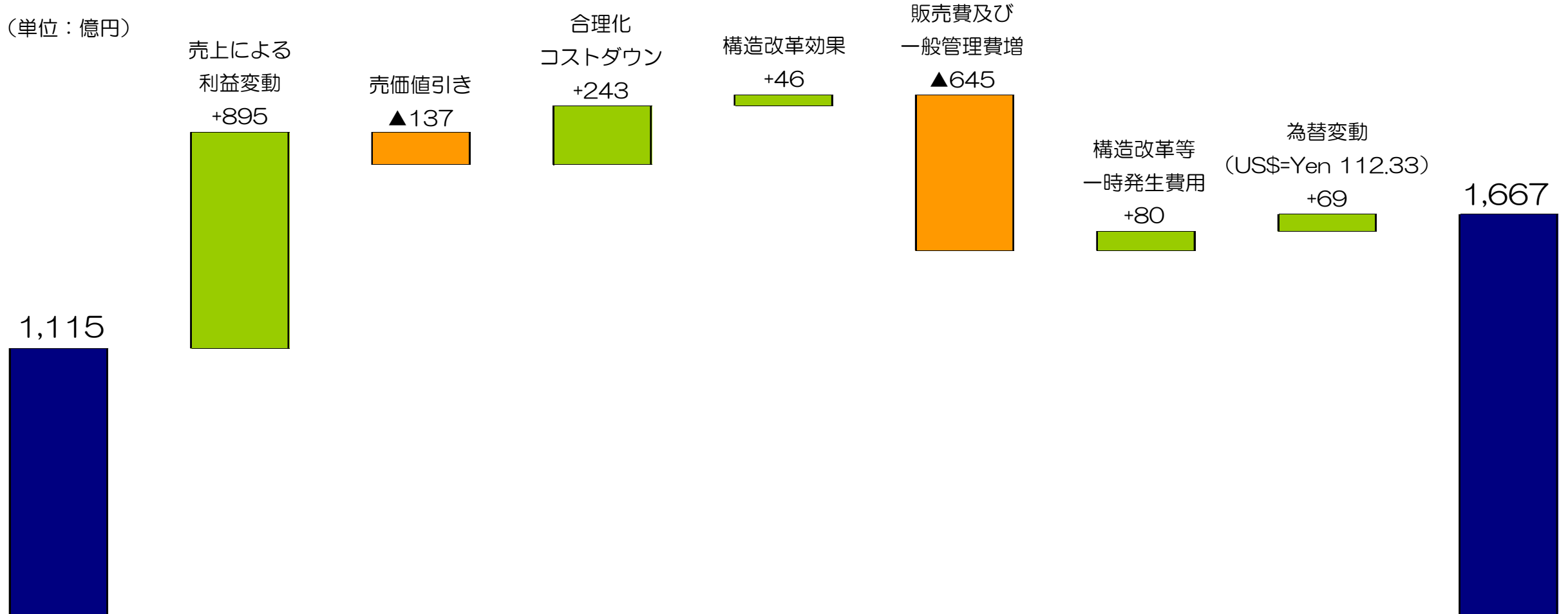
営業利益増減分析

2021年3月期
1,115億円

営業利益 +551億円

2022年3月期
1,667億円

(単位：億円)



2022年3月期 セグメント別四半期実績

	(億円)	2021年3月期 第4四半期 (A)	2022年3月期 第3四半期 (B)	2022年3月期 第4四半期 (C)	対前年同期比増減 (C) - (A)		対直前四半期増減 (C) - (B)	
					増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
売上高	コンデンサ	443	508	504	61	13.8	△ 4	△ 0.7
	インダクティブデバイス	390	470	457	68	17.4	△ 12	△ 2.6
	その他受動部品	306	318	310	4	1.4	△ 7	△ 2.3
	受動部品合計	1,139	1,295	1,272	133	11.7	△ 23	△ 1.8
	センサ応用製品合計	239	361	351	113	47.2	△ 10	△ 2.8
	磁気応用製品合計	546	640	584	38	7.0	△ 56	△ 8.7
	エネルギー応用製品合計	1,873	2,561	2,741	867	46.3	179	7.0
	その他	125	139	134	9	7.2	△ 4	△ 3.1
	合計	3,922	4,997	5,083	1161	29.6	86	1.7
営業利益	受動部品	95	226	157	62	65.8	△ 69	△ 30.6
	センサ応用製品	△ 85	37	△ 3	82	-	△ 39	-
	磁気応用製品	△ 41	33	△ 35	6	-	△ 68	-
	エネルギー応用製品	250	390	265	15	5.9	△ 125	△ 32.1
	その他	△ 83	△ 7	△ 9	75	-	△ 2	-
	小計	136	678	375	240	176.8	△ 303	△ 44.7
	全社および消去	△ 95	△ 86	△ 101	△ 6	-	△ 15	-
	合計	41	592	274	234	577.1	△ 318	△ 53.7
	営業利益率	1.0%	11.8%	5.4%	+4.4pt	-	-6.4pt	-
為替	対ドルレート (円)	105.87	113.67	116.14				
	対ユーロレート (円)	127.75	130.06	130.35				

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載いたします。
https://www.tdk.com/ja/ir/ir_events/conference/2022/4q_1.html